

【基調講演・当事者の話を聞いて感じたこと】

- ・小学校、中学校に登校しない子は支援できるが、高校生は義務ではないのでどこまで入れるだろうか。個人情報の問題もある。大学生については、通信の高校で大学に入って迷惑をかけてはいけないと思っている。気を遣わせることをしてはいけないと思っている。本人から SOS を出せない。相談機関の紹介、家族内での悩みがある。
- ・障害のヘルパー関係の仕事をしている中で母に精神疾患があり相談支援事業所につなげるケースなどがあり心にズシンとくるものがあった。
- ・近所でおせっかいな人が少なくなった。ご近所と横のつながりが少ない。ちょっとした事しか協力できないのかなーと思う。
- ・母に精神疾患があり、子どもは不安で学校に行かないケースを知っている。支援も入り学校に行くよう促すが子どもは不安で行かない。もう少し学校から手を差し出してもらえれば良いなーと思うこともある。どの程度寄り添うのか、引きこもり支援はハードルが高い。ネットワークも都心の地まで行く必要がある。身近で発見することは難しい。
- ・坂本さんのことで買い物や食事をだれがやっていたのかが気になるが聞きにくい。子どもがいつも買い物しているのを近所の人が声をかけられれば良いと思う。気かけられるシステムが必要。ヤングケアラーは悪いわけではない。
- ・親を悪者にしない。→親の支援が必要 親を助けることで子を救う
- ・家に入りづらい。支援に入っている所から介入のきっかけにしたい。
- ・社会の中に当たり前にいることを知らない人がいる。
- ・ヤングケアラー当事者を支援しがちだが、その要因となる方の支援も大切だと感じた。
- ・日々の声掛けが大切、日ごろから小学校のあいさつ運動などを通じて子どもたちと顔見知りになっておく。
- ・保育園・病院などの現場では今ヤングケアラーでなくても、今後なりうるかもしれない家庭の把握が可能であれば、行政につないでおくことができるかもしれない。
- ・小学校長へ聞くと「ヤングケアラーは、いません」と返答があった。→ケアが日常となっている。自分・本人は気づいていない。周囲にいないから話さない。気づきにくい。
- ・母に障害がある。入院が長くてB型事業所を利用している。自分も辛い話を聞く。ケアのことはそういうものだと思っていた。言えるけどしまい込んでいる。頑張っている。
- ・気にかけてもらった本人は幸せ。介護保険ならある。当たりのヤングケアラーの窓口がない。制度が整っても家族が望まなければ、関わりは難しい。
- ・学校で友人に知られたくない思いもあるのかもしれない。そうであればどこで引っかかるのか？
- ・ヤングケアラーと言うよりはもっと大きな網をかけて見つけていく。
- ・自分の身の周りにはたまたま多く当事者がおり、友人同士繋がって愚痴を言い合ったり、助け合いの輪を作ることができていたように感じた。
- ・9割以上のヤングケアラーの子どもたちが、大人に相談していないというデータに驚いた。そんなにも大人が頼りにされていないのかということにショックを受けた。大人として子どもに期待をしてもらうにはどうしたら良いのかを考えることが重要だと感じた。

【これからできること】

- ・こどもぴあを紹介していきたい。
- ・ヤングケアラーは、早目に手を打つことが大事では。小学生の頃から理解することが大切チラシは漢字はやめよう！！インパクトのあるチラシ、例えば「おうちにはおかねがない」とか「お母さんがいつもねている」「いつもおばあちゃんのおつたいでしている」といったものが良いのでは。
- ・子ども自身にアナウンスすることも大切。先生の感度をあげてもらう。
- ・子ども自身にSOSを出してもらう。
- ・周りの大人が聞いてあげる。
- ・今ある発信する機会を増やす。
- ・虐待まで行けば児相や市も関わってくれるかもだけどそうではない。辛く思っている子をひっかける手が法整備ができれば。
- ・こういう場を増やしていろんな世代と何度も話し合っていくべき。
- ・地域の子どもに声をかけること。挨拶をして反応を見ていくこと。
- ・子どもが気軽に「頼れる」「話せる」場を設定すること。→学校・地域のイベント 複数回やる中で浸透していけば良い。
- ・学校の授業の中でヤングケアラーを取り上げてもらい子どもたちに周知できたら良い。
- ・おはようボランティア。
- ・自治会など地域へ伝えていく。小中学校のPTAのイベントとしての講演会もいいのでは。
- ・リーフレットなどを配ってもっと認知してもらう。
- ・グループ内で「ヤングケアラー」と言う単語を知らない方がいた。ヤングケアラーを発見するには、もっと多くの方に「ヤングケアラー」を知ってもらうことが重要。
- ・自治会、学校内での保護者の集まりなどで周知するのはどうか。
- ・認知症のサポーター、自殺防止のサポーターなど様々な支援がある。それらとセットでヤングケアラーも周知できればいいのではないかな。
- ・SOSを出せない人もいる。→民生委員や地域の人が気にかける。
- ・今の時代、隣の人も分からない。コミュニティが必要。
- ・このようなテーマを共有できるように一般企業や学校にってもらう機会が必要。
- ・子が安全に塾にいけるように見守りしていた。今は、個人情報厳しく難しい。妻が教師で、虐待の通報をしたことがあったが、それが正しかったのだろうかと考えている。コミュニティがこれから減っていくため、この講演を聞くたび悩んでしまう。
- ・母に精神疾患があるケースで、訪問に入れば入るほど子どもが拒絶した。知的の母が出産、環境が悪かったケースもあった。見守りが大事だと思う。
- ・各専門職の人たちが「ヤングケアラー」を知り念頭に置いて仕事をしていくのも大切。
- ・市からの場合、個人情報保護法などあるのでその分が難しい。個人を守るための法が今は足かせにもなっている。情報を出すには機関と要対協を組む必要がある。
- ・横の機関間同志がもっと気軽につながることができればいいな。それをコントロールしてくれる司令塔みたいな所があればいいな。